KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
ル 4
543
11

1543
11

洛陽名所集巻之十一目録

法輪寺 井 桂里　大井河
千代古道　芹河　嵐山
戸雛頭瀧　小倉山　大沢
梅宮　梅津　松尾
東寺 羅城門 二条門　大通寺 広寺云　竹田
秋山　少枝橋　鳥羽畑上
城南寺　六田　横大路
美豆里　久我森　墓里
吉祥院　乙訓杜

亀山
子光寺
大覚寺
西芳寺
化塚
恵塚
羽束師杜
西院

法輪寺

○此寺ハ大井川乃ほとり嵐山ふもとに清綺る
ゆゑ七八町ばかりなるもあるよるこゝめハ葛井寺
とゝいひしかやなるハ虚空蔵や　釈道昌開基
釈道昌ハ秦氏なるく讃州香河乃人なり幼稚
なりしよりこゝ修行ありて東大寺に登壇
具足戒をうけ弘法ありてこゝに灌頂
壇にのぼりて天長七年に内裏にて仏名
懺悔導師をつとめ帝昌に帝をかく
授戒し給ひ庵室の飛いばらに御とうんをく
とゝせしなりめしに昌河のうつさ海よりこゝに

てまつりて。先帝まい山沢の龍顔をもて
うつくしくにさそひたのごとくに一瞻ちなく
めぬ。ほいやゝ鄭重なるに感ぜしまゝ
でたてまつりさてで帝の恥いとをしく
かなしくなくなくいかなるもとにて奏言をうく
おほうのうねびとうう虚空を仰ぐ
庵供をもてまつりて年月まつ間長
神のうへに。虚空蔵菩薩ひのくまをうれむ。
その他さまざまの願をして法輪寺を建れ
ぬ。勅願元年に三尊講師と形ち
如。勅願和中おほ大井河のれ溢さまをうれに。

品をまうけたりん事をおかし。
伊勢に最人なのごとくさまをてつ日な
くなるのいとまやゝかへり基菩薩成
見伊勢にいつて貞観十六年に僧都
やくなる同十七年の春二月にはじまり七十
八とうの辛しぬ。品法義を講じる敏よ百
七十座とて
義墨井　堂乃かたらひ井のこと社をうり
這品。井ゐく垢離の時星ごとけるなり。
桂里
○はゝ大井河の下九条乃西也

伊勢山形にてもみぢのうつくしきあり二ツ三ツ
中にあひしろ星なる色いとあんばいのうせ
為家卿三ツにて星の名をいつもよろこび月
月の猛乃秋はしらひい
永四年風くはうそ家へいらの星乃ごとく
こがつくろ星なんぞ色ぬひ
つもくしめくの物ひけらとなりぬが
ものやうんそのあれいてみをのりとくもと
金の紙母物ゆくりきうせたり

大井河

つけ川を冊波路にて落出るにはやうこ一町餘
色ありん。
謎にけ所ありて時ともよきうく忘なりめよ
しだ用くけ三乃美りくにらし出世教なる
せがどあくつとに及ばば大つ思ひに権
律師樞輸ハ大井ほとくとめめ三ぐに
花をさの一れ世でやう向波ちうぐ
もりうい丹生に夜のくにありくん
ハ後成々の子ち公任々のおちはとる
美をとうハ一ハいやうに秋せくやう

を後へ乃せたのあやとりうんとも解
きれ菱とゝなるもゝい蔵蓮法師より
ぎやうにうけるもゝ多くよふてゝちゝ
ゝてやさゝしゝ乃ちゝ延喜帝れ
なゝ行ひく。舟行のふゝたゝを見さく
嵐の山のあゝまでみゝやのそゝ
はゝ富いゝんれされよゝ一ゝかりケ月四
けゝゝと又義保寛治のちゝや白河院
り幸の移ゝ舟川みきよゝ海ゝ
ちゝ波渡る海もゝのゝの海製ゝ
けゝみきゝんやさゝ人ゝ母遊人

海に扁舟こぎ出るゝてゝ乃ゝ蓋ゝて
はゝび月はゝゝさゝゝ光ゝてゝれ岸
ゝれ岩間にゝせ色ゝのたゝ四ゝく
れれもゝさ。けゝゝ敷たにおんひま
なく乃ゝにゝ。ゝのゝどゝく向岡
乃わざゝゝや鮎ゝゝゝ人ゝ
ゝゝひゝて孫興じてゝよゝる
ひゝふゝのゝれかゝゝき
七八年お乃秋ゝ月ゝゝゝひ生ゝ
のゝゝゝ士迪ゝ賢生ゝゝなゝひけ
川乃はゝゝにゝ迪ひ附醫迪

白雲樓洛西秋詩景因多徒擇大堰殿
噴雪裡小松若の業帶風流
こと述作するしよりこゝ其論になるハ
て余もまゝ
偏洗吟眸大堰秋紅楓素月弄清遊鷺鳴後
薄桜客一夢千年相續流
亀山
○けふハ大井川の岸法輪寺に向ひ天龍寺に上
りたり
暦應三年に尊氏將軍夢窓國師を用ひて
亀山殿の回廊を改て安藝國防の勅願
をとゝのへ天龍と称し仏事弘ひ法覚ハ
亀乃尾の山を狩猟の場にいたし給ふ
ためこゝ家ゝ多くいてゝ
後鳥羽院御製に亀山殿の御造営ハ
玉のゝ宮まるる代の初末又後嵯峨
御製よりめ山の紅葉折うめて見わたせ
よおしと代士
千代古道
○此歌ハ亀山殿の図ハ乃歌碑よりこゝ
芹沢
○けふ所ゝ古道ゝ
をゝ鳥羽より芹川

かくこそ名まさるらつ〜さ示や

淳和天皇。初くもり幸し行ひくらちまる

仁和帝も幸おはしまさしかば。行幸朝臣之のよ

淳和の山ゝ紅葉の錦みな〜芹ほや古代の古た

紅はさけりぞうらぶるこゝぞ

嵐山

○此山は法輪寺はらしらの天龍寺のむかひなる山也

續後選よ西行法師ゝに昔乃〜嵐の山ゝ

はそ〜ゝ〜くぞ紅葉にちるなるふ

かうらゝしらげふせもそそる身乃哀一ゝ催

さりてぞ人ゝ思ふ秋ぞ

〜そ〜ゝ〜ゝ也。玉葉集に又たゝひあゝしの山

れ葉寺扶の名ゝ寺ゝ為ゝ

ゝ後撰ゝ寺なり。又後千載集よ嵐山ふ

ゝ〜れ公の樹ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

雲ゝ。後世ゝ為氏ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

一鉢の月ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

○〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

秋の〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

○千光寺ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

八観音也。延喜天皇御願なる事。
羅山子道春うんの碑文法華経を道園僧都書

戸難瀬瀧

○此瀧は大井河の上流瀧なる
後頼朝臣の三の瀧にぞなせりとて
のこりなき此瀧いくしほとるふんーてらも
後成寺殿三の瀧。とかせ給ふと流を清き舟川原
にあるものなるべし。又こなせ川也ちなせで
此瀧をみくぐんぐ船にうけるとてめるとも
宮家三乃瀧なるべし

小督桜　天龍寺御願なる事。小督方
なるげしは衣をきしまなりとて
小督は高倉院の御寵妻播磨中納言成範の
の女なるべし。後泉大納言隆房の
り將乃御むすめ一のみやいくなどをあく
して門をとめさせ給ひしかば。
此女房君御涙をいとどの將よしづ
そなるべしこのばの將　四位の人れわくは
陸奥守千賀の姫ぎまちなりしなり。書
て御屋乃ちへ入給ひ給ふ小督わすべ
なしして。坪内へ出そ給へぶのおろしなげ

ちらく懐にいてらく　玉章をしハあ
さへらそしらやちらそんらをひ捨くやし口
迫ひらく只ちらく勇しくるんとなりけらへ
八平相國清盛勢揮にわつせらへ小猪と
くらんこさらくこ引ぬ帝ひらくらくらげ
なめ小猪の助清盛の名にくるや
ちんらぐるちんらを仕せられて作書名
ら。察れ作馬にのるくらくらるげと雑
ちげるちらくらの中ちるけ山里と詠
じらん邪魔乃秋の夢のちぐわらと

ちらくに尋めくるらに亀山乃ちらく
ら松の一村ちらくに遂ら琴の音ちわれば
岑れあらら松の世ちたらとれちら想夫憲
らいら曲ちるちらは仲國さくこそらら
らく門ちれちらく入ちれちやらく
御忠事乃ちらいさぎ侍ちるらに主上ハ
ちれゆらへ乃御在屋ちらせちらら仲
國れちすちらをらしばるめちとおらし
れらそのちらむらんちらせらしに相國
れちいらくるを御ゆて。けちらら小猪と東山
濃へまるらいら所へちらせらら出らるん

沙法せしこつぶ小猪又世でなしこの
さくに衣つけ大井川のうらつけうう
世者なりや

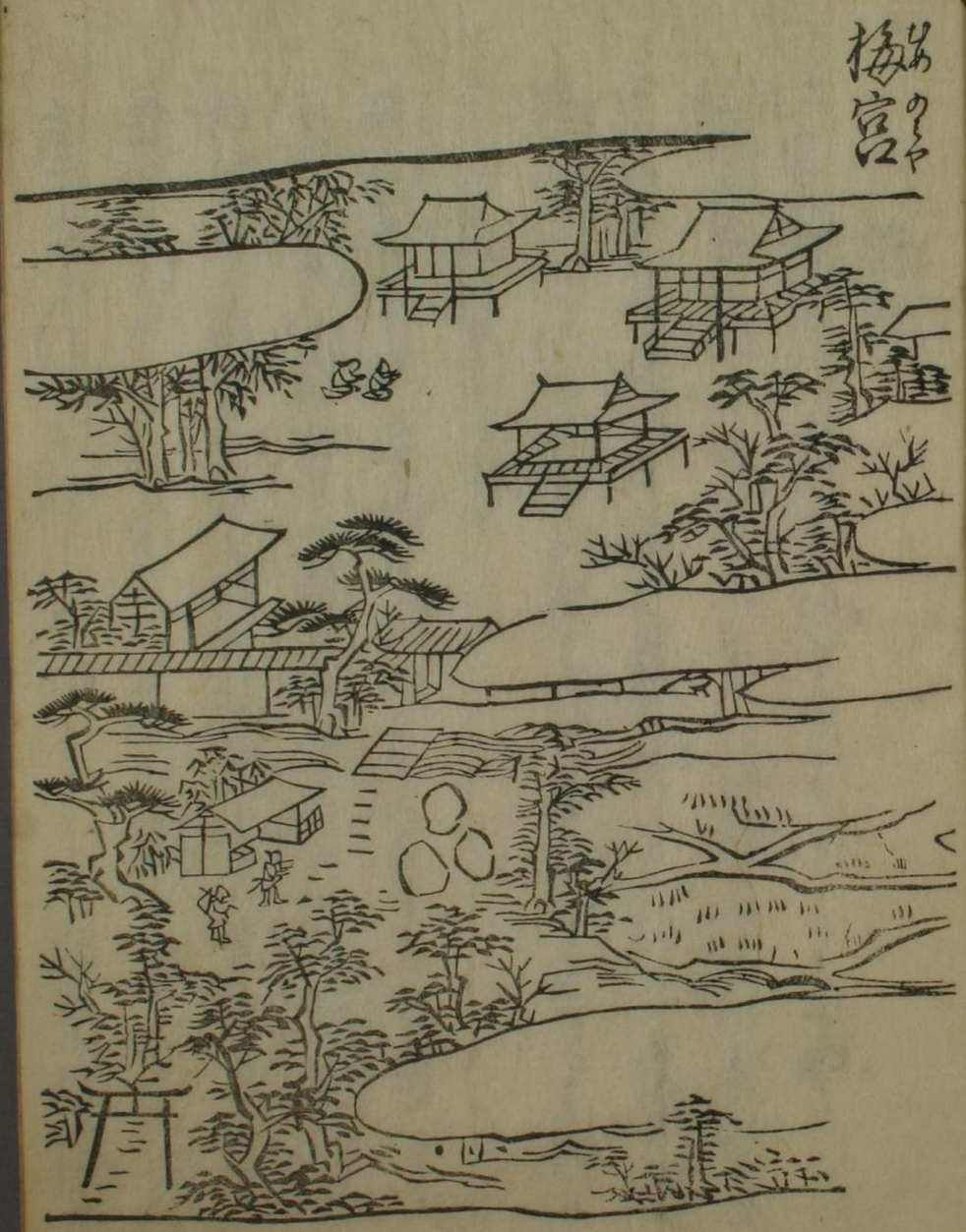
大澤

○此澤ハ通昭寺なる大學なるへし道とあらち
門乃東のつなりなり柳ちかくなりや
後成つゝこのに大澤の池なるまゝもふき
ゆのどうらくばとめ秋の夜月

大學寺

○此ハ上淀城へ引右なるつなり嵯峨帝
の故宮なりつゝ

恒寂ハ淳和帝第二なる也ゆく僧史なり文
辞なりつゝ性ものゝ後嵯なり仁明帝冊
ゆ望太子ゆくなり弥光けゝと俗来に志
ふく常に逃逸なる事ゝなれハして帝爾
しゆのくのちゝ淳和院乃東亭なるよく
迎なゝ俗に亭なるといゝなるゝ
嘉祥ニなに樂加ゝ沙弥戒なりけ時年二十五
貞觀二なゝ真足戒なる受ゝなるこのゝて
真如阿闍梨に志ゝ兩部の密法なるゝ
ゝ莊田資真なる大學寺まゝゝ淳和の太
后あゝなめく伝寺なゝ弥ひ也丈六



弥陀諸種寺供僧願ふ寂のおけること
ろ。仁和元年九月室に入望日まぐに
薬ぐしのざ也八年ひのやしまに西に
ひの井死坐せつ。そうこうぶ年六十二兒おい
しぬ。撰父寂のしくしくく。寂出家の日
同く刺落とくや。寂ぱくこ徳書つくく
弘仁天長二皇せ。二ぬくく称しくくこと

梅宮

○此宮ハ七条乃西大井にあり。まつの木や
仁徳天皇の御母橘太后の御神なり。義和多
中にこもりてのりとなり。奉冬のしけるに橘是定
徹頭しけりあ永延に後毎歌ぞうつる秋ま
るる事なり
嵯峨天皇の后橘氏にて此寺ハ正一位清友の御
后乃澤ハ嘉智子の願太政大臣良房のもの
女なり清友ハ橘兄の孫なり
世にもてるにしたがの屋の御所とぞ。
産まれけバうめ
ぞやとぞ。后皇れた拾言

しそ。椎が僧都慶有さうず　ちに今花咲
梅のうゑそ。らたそ代はさうそうん。
とうそ。しになるも

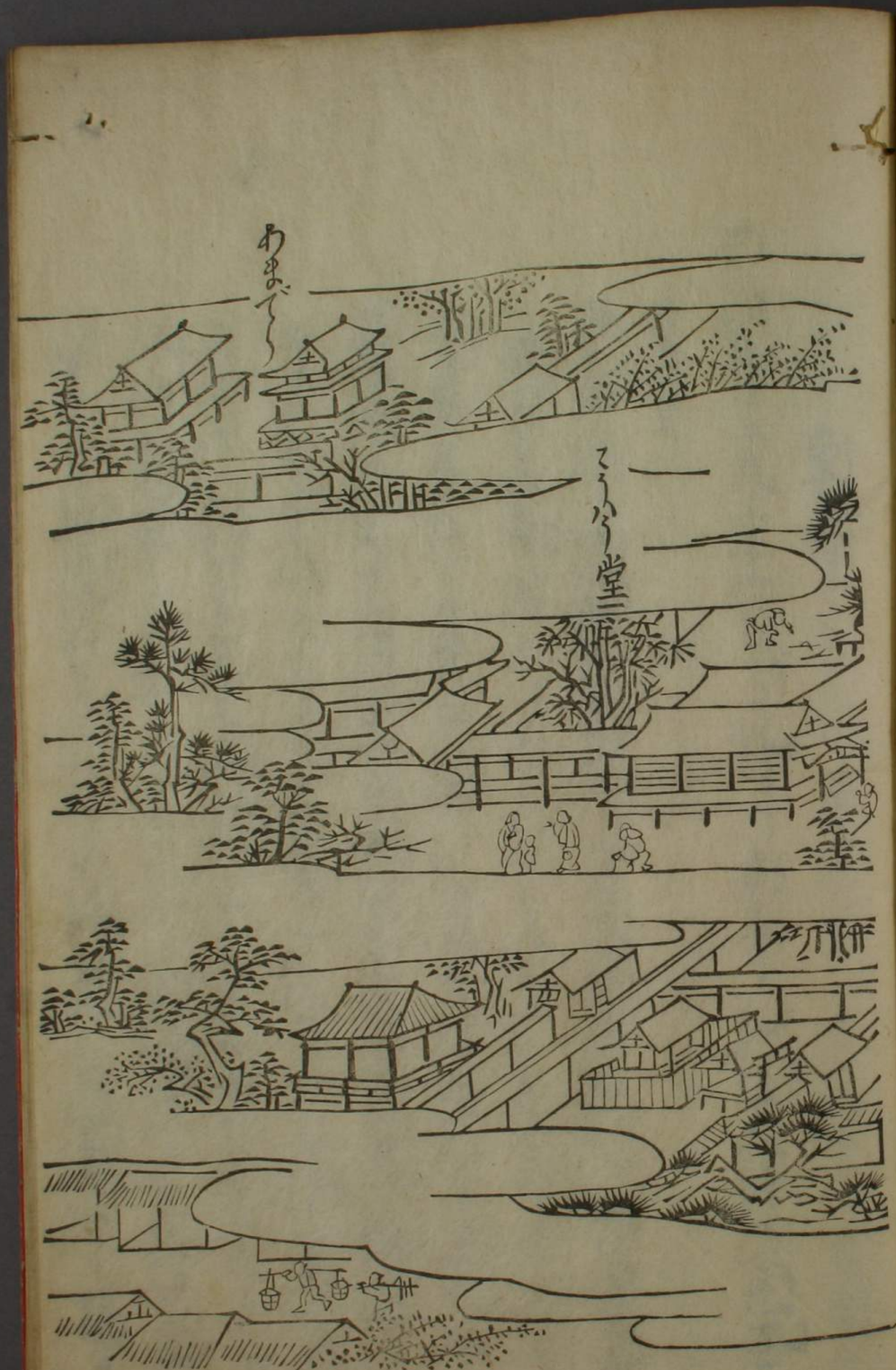
梅津　川

○しが示ハ。梅ハ。うやはみなる
惠慶法師歌。梅津川とそうあち
かそうゆうをのもうをかをざうそ。
そよめうそ。獅子法師の教句にそ。園
乃あそ。はたそ。ささにうれ。公資朝臣
わうさに。ひあはの梅を。やそ。ぬうん

松尾

○此社ハ西芳寺より五六町小や
大ゐ元多に。秦都理もりめく社なりく
ゝ。大山咋神ゝ是ゝ。此嵯峨の
弥ゝ一神とゝ。祭ハ四月上乃申日也。鄭覩年
中にゝ。ゝとゝさゝゝゝ。
寛弘元年十月十四日に一像院ゝ
ゝ
神書抄曰昆丹塗矢之化神松尾明神是也
貞観三年に。清和帝。毎勅寺の相應に詔
ゝ。宮中ゝく。阿比舎社法城

せてに二人ゐん童子ゐよ祇呪傳一ものやしろ
うゑ。松尾ゐ神なるものゑ。ゑ。ゑへぬ帝ゐの
ゐ。源僕射に仕ゐ。ゑ。ゑ。ゑ


わまでら
こうりう堂

東寺

東寺

○東寺は九条やゝ西の野の新寺。弘法大師の開基なり。空海姓は佐伯氏。讃州多度郡の人や。父は田公母は阿刀氏。梵僧ゝ入唐ゝ三年ゝ帰朝ゝ。母其夢ゆめ見て。空海を生ゝ。母其夢ゆめ見て。空海を貴物と云。十二の年。世間学問なり。文章作まなること。十八の年。大学寮に入て。儒書を学ぶ。仏弥陀ゝ観音ゝ。仏門勤操に学て。虚空蔵求聞持の法を受まゝ。薬師の像を彫刻事を楽

きゝびゝ家列の槇尾山よりゝ飯海如空す
ゝ面名なゝ延歴十四年よゝ東大寺にいゝり。
奥義戒壇受けゝ空海ゝゝゝゝ乃仏ゝよ
ゝゝゝゝ法壇ゝゝゝゝゝ夢中よゝ一人ゝ
ゝ告ゝゝ大使ゝゝゝ大明宮遮那神愛加持
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

元和元年秋の月より常朝しばしば嵯峨帝勅
をくだし宮中よりおひくだし法宗の碩師ばかりを
おのおのたづねとらせ給へしかども
海印法華傳乃義をばいとくけ給ふ法宗爭
をもくじをもて常海よりのぞまれ給ふ海
ばかりをもてかくさるべきにあらず海のそこ
の藏を摩地觀より入給ふ頂上より五仏の宝冠を
顯し給ふ五智の宝冠をもて風客をやぶ
り給ふ常海をもて法花の行者とし給ふ
法華經の通唯識乃德仁王經の
通雄天台の圓教乃陀羅尼をもて

十有三年より天皇常入壇灌頂し給へり常若
の密灌をもとより始め給ふ海をもて密教法
をおこし勅をくだし不業法のべ毗盧遮那法
心海をもて法心海法をわたし給ふ天長
元年大月日より常海を勅して補灌頂
位をひらく請雨經の法をもて修し給ふ守敏
法師奏しいとう敏世利法願をもて海をもて
ばかりを招をもてけるに七日をへて雨降
りのもとに雷鳴雨濃つよくして東西の
うはかへつて海より招して七日法をもて
どめ給ふ海そのとき摩地をもてみ

けるを守敏僧都龍池に呪して龍を入れり。
海ぞこに奏してこの日池乃べ流れを告しへ
池中に龍を籠て善女龍王と号す。阿耨達池の龍と
乃眷屬の龍とこの池に住せり。此池
地獄をんさうやは対に長九尺ばかりの金色の
龍出来て。東の方の真然僧正七人の
和尚真然に勅して幣帛を信しめ。
さて撤回して震雷大に雨ふりくだ
雨降下りて給し勅のごく。優賞あり
永内列に一寺を建て。この池や龍池
をこにてこれをしめ涸わ寺衆。
ばかりこれをしむ海一昨を鎮して加持
清泉ばかりも化佛けりとも。龍泉寺
を号しめ。その外行基菩薩異ども
弘仁七年に紀列よりて勝地と定めぶり。
高野山に乃ぶ。金剛峯寺を創し同十四
年正月勅のごく東寺を海に賜ふ。ちなみに
灌頂院とけて青龍寺に准し毎歳
二月に灌頂の事をおこなふ。慧果
乃住せしめて。健陀國袈裟金なくて
寺領とせり。天長二年に勅して高尾の

鎌倉とあらため弥護國祈真言寺と名づけ
海より[illegible]の[illegible]和尚を金剛峯寺の嘉祥二年
一百に[illegible]慶[illegible]を作る。入定し給ふ。海豆列の上
に拔ける空より白い。大般若經写し魔
事成よりて。空中に現し給ふ
筆勢よ工夫ありて接連なり。秘府論
三教指歸性靈集。[illegible]
わたる。延喜二年有一年四月。弘法
大師ふたゝび入定の時二歳にて
○尼寺　平忠盛乃室池大納言頼盛
母。池尼公乃ときまり給ふ。[illegible]

羅城門　是ハ。東ちかく大内裏なり。大門なり。
門。周防國門より。[illegible]門や。昔は[illegible]
[illegible]。[illegible]
○二王門　是ハ。東寺の南門や。東寺[illegible]
門。[illegible]麿孫[illegible]郎長[illegible]
[illegible]二王[illegible]長[illegible]

竹田

○此所ハ。都の東。鳥羽の東なり。
為家卿乃[illegible]
車[illegible]

四塚

○はるのはぶ古墳のこすゑや

秋山

○はるは上鳥羽の東の岡なりけり。

寺ももももやはらかに都東よ。秋山もももくも

等持院贈左府のこうに夕日さす秋の山

もも霧ももももく鳥羽田は編笠霧ぎ

もももも

衣うつとも田もえん里乃稲むしろ夜ゝ成
世秋の山せ

○壇上　是ハ。鳥羽院御願ノ護摩堂ノ
跡なり

戀塚寺

○此寺ハ。鳥羽乃下。壇上と云所ノ
世よりの塚ゝくゝ成なるゝしるハ。鳥羽
ゝゝ塚の東にゝゝゝ石碑なりゝゝゝ
戀塚とくゝその中に来たる歌ゝ
○袈裟のゝ石塔ハ。戀塚寺乃うちにあり。
苔むすしるなるゝ

むし殿部遠藤左衛門尉盛遠ゝ
遠藤武者盛遠ハ。渡辺ノ者内侍の姨母
衣川の娘に袈裟御前ゝゝゝ
やゝゝゝ女房ゝゝ生遠ゝゝ
しくゝゝゝ
武者の射渡ゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝ

しるめ。参詣よりはなのうちもきまる
せんとて。釜遠の田ひにてうのきくのう。
女房。うくたれつなぎ殺し数多いく
てとくいぶ釜遠ばかりもなのづつ起るよ
うくぶ。あびくうとあり。女房のて
うちうちるるしなめきぶかりを鎌田
まらびその男路にて宮きしめ。釜をけ
下のうもとよりれて。出家一文覚と義
のうへうる旅上人とよりも。将軍頼朝に
うくまうへ政治をもつる
とで

城南寺

○けるい上うの鳥羽のうの路のうう
杖とうの行うう

六田

○けるいうる羽のわうもやいうわうる。
なだあうとけうでで

横大路

○けるいう下鳥羽のうもや。左家とけう

羽束師社

○け社いうう乃面なり
後成乃立のうもうしても神やたうん

つなかるゝ世界なりしより社家繁昌

かゝるあるかゆへ

葉室里

○此里ハ清閑寺の西にあり

光俊朝臣歌よ。この心ふかくもとれてそ

なれ行乃末とてむれ来農世てのゆ

久我森

○此東ハ東ハ[illegible]

文永集に。光俊朝臣ゆ[illegible]

紅葉をゝ久我の東法乃わゝやゆ

しぬらん。又ゆ[illegible]

人ハ行久ゆ乃[illegible]

ぬゝ

鷲之里

○此里も[illegible]

[illegible]家朝臣乃[illegible]

[illegible]

に。[illegible]月西よ[illegible]

門田乃[illegible]

西院

○此ハ東寺乃西廊橋の下なり

守敏[illegible]

吉祥院　菅家御願

○しけ院ハ東寺の西ニ於て吉祥天女の像をも
多武杜

○吉祥院の下ゆ
関白秀吉之韓伐征ニ
ちゝ
きゝて
ゆ
こゝ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ